

ヨハネによる手紙第一4章14-15節 「証しと告白の力」

1A 御子の証し 14

1B 証しの力

1C 真実の確認

2C 御父の証し

3C イエスの証し

2B 救い主

1C いのちを得させる方

2C 宥めのささげ物

3C 世からの救い

2A 応答としての告白 15

1B 神の御子としての告白

1C 父と一つの方

2C 人以上の方

2B 告白による救い

1C そばにある神のことば

2C 言い表すことゝの力

本文

ヨハネの手紙第一 4章を開いてください、今晚は、4章 14-15節を見ていきたいと思います。「¹⁴ 私たちは、御父が御子を世の救い主として遣わされたのを見て、その証しをしています。¹⁵ だれでも、イエスが神の御子であると告白するなら、神はその人のうちにとどまり、その人も神のうちにとどまっています。」

ヨハネは、「証しをしています」と言って、それから、「告白する」と言っていますね。証しをすること、告白をするところにある力を学んでいきたいと思います。クリスチャンの間では、証しをするというと、自分の個人的な体験談を話すというように使われてしまう傾向があります。また、告白するというと、信仰告白を祈りの中で行ったから、それは過去のことだとします。けれども、どちらも違いますね。証しは、個人的な体験を話すこと以上のものであり、告白は過去に口から言い表したということ以上のものです。

1A 御子の証し 14

「¹⁴ 私たちは、御父が御子を世の救い主として遣わされたのを見て、その証しをしています。」私たちは前回、「¹³ 神が私たちに御霊を与えてくださったことによって、私たちが神のうちにとどまり、

神も私たちのうちにとどまっておられることが分かります。」と読みました。御霊が、神のうちにいて、神が私たちのうちにいるという関係を明らかにしてくださり、確かなもの、保証、確認させてくださることを見ました。ここ 14 節では、御霊だけでなく、「私たち」すなわち、使徒たちも確かなものとして、証しているということです。

ヨハネが、第一の手紙の冒頭から証しを立てていたことが分かります。「1:1-2 初めからあったもの、私たちが聞いたもの、自分の目で見たもの、じっと見つめ、自分の手でさわったもの、すなわち、いのちのことばについて。2 このいのちが現れました。御父とともにあり、私たちに現れたこの永遠のいのちを、私たちは見たので証しして、あなたがたに伝えます。」イエス様が、肉体をもって私たちに現れておられて、この方は永遠のいのちそのものだと証しして、伝えていると言っています。証しをすること、伝えるということが、私たち信仰者の大きな務めの一つですね。これは何も、未信者に対する伝道という意味だけではなく、次の世代の信仰者に、自分よりももっと信仰的に若い人たちに対して伝えていくという大きな務めがあるということです。私たちはどうしても、自分の素養だけを考えてしまいがちです。信仰の成長は自分の内に留まってしまいがちです。自分自身が成長しながらも、隣にいる兄弟姉妹に伝えていくという働きも同じように大事です。

1B 証しの力

1C 真実の確認

証し、証言というのは力を持っています。それは自分が目撃した、経験したということ、真実に基づいて証言することであり、自分の証言によって事実であると認定されるのです。申命記 19 章 5 節には、聖書全体に貫く、証言の原則が書かれています。「いかなる咎でも、いかなる罪でも、すべて人が犯した罪過は、一人の証人によって立証されてはならない。二人の証人の証言、または三人の証人の証言によって、そのことは立証されなければならない。」イエス様が、この律法をもって、教会で罪を犯した者に対して、他に証人を連れて来なさいと弟子たちに教えておられます(マタ 18:17)。そして、使徒パウロは、自分自身が同胞ユダヤ人について大きな悲しみがあるという時に、「ロマ 9:1 私の良心も、聖霊によって私に対し証しています」と言っています。証人として、良心、そして聖霊を連れてきているのです。預言者たちも、天と地を証人にして神の語られる言葉を告げています(イザ 1:2)。

証言によって事実と確定されて、それで判決が下ります。物事がその時に動くのです。今まで、気の遠くなるような議論をしてきたとしても、証言によって一切の反論を許さないほど決着をつけます。それほど、証言には力があります。

2C 御父の証し

今、ヨハネは、御霊について 13 節で話し、そしてここ 14 章で御父が御子を遣わされたということについて話していますが、三位一体の神がおられることを語っていますね。主がバプテスマをヨハ

ネから受けられた時も、聖霊が鳩のように降り、天からの声、つまり父なる神からの声がありました。

ヨハネまた他の使徒たちは、「御父が御子を遣わされた」ことを証言していますが、まず、主イエスご自身が、ご自身が御父によって遣わされたことを、数々の証言によって証しておられました。ヨハネ 5 章を開いてください。31 節から長いですが、読んでいきたいと思います。「31 もしわたし自身について証しをするのがわたしだけなら、わたしの証言は真実ではありません。32 わたしについては、ほかにも証しをする方がおられます。そして、その方がわたしについて証する証言が真実であることを、わたしは知っています。」今、申命記の律法を見たように、主ご自身一人だけでなく、父なる神の証しがあるとされています。

「33 あなたがたはヨハネのところに人を遣わしました。そして彼は真理について証しました。34 わたしは人からの証しを受けませんが、あなたがたが救われるために、これらのことを言うのです。35 ヨハネは燃えて輝くともしびであり、あなたがたはしばらくの間、その光の中で大いに喜ぼうとしました。」父による証しを語られる前に、ご自分の前に来た先駆者、バプテスマのヨハネの証しを取り上げておられます。ヨハネは、ユダヤ人たちの間で預言者と認められていました。大きな働きをした預言者です。そのヨハネが、イエス様が来るべき方、メシアであると証言したのです。私たちも、ある権威ある存在が確認して証言したら、事実だと思いますよね。ユダヤ人にとっては、ヨハネの証言は強烈だったのです。

「36 しかし、わたしにはヨハネの証しよりもすぐれた証しがあります。わたしが成し遂げるようにと父が与えてくださったわがが、すなわち、わたしが行っているわがそのものが、わたしについて、父がわたしを遣わされたことを証しているのです。37 また、わたしを遣わされた父ご自身が、わたしについて証しをしてくださいました。あなたがたは、まだ一度もその御声を聞いたことも、御姿を見たこともありません。38 また、そのみことばを自分たちのうちにとどめてもいません。父が遣わされた者を信じないからです。」イエス様は、父なる神からのわがを行われました。ユダヤ人には、「わたしを信じなくても、わがを信じなさい。」とまで言われたことがあります。それは、わがは、反論を許さない証言の力があるからです。主の行われているわがが、神から来られた方であることを強かに証言しているのです。ですから、私も、キリスト者のみなさんにお勧めしているのは、聖霊の力によって変えられることです。私たちがどんなに語っても、人はきちんと見えています。しかし、目で見える形で、語っていることが証されるならば、人々の口が塞がれます。

「39 あなたがたは、聖書の中に永遠のいのちがあると思って、聖書を調べています。その聖書は、わたしについて証しているものです。40 それなのに、あなたがたは、いのちを得るためにわたしのもとに来ようとはしません。」バプテスマのヨハネ、良いわが、そして三つ目の証言は、聖書そのものです。旧約聖書にある律法と預言が、イエス様が確かにメシアであることを証言しています。イエス様が、最後の夜に捕らえられる時に、剣をとって大祭司のしもべの切りかかったペテロ

に対して、剣を収めなさいと言われました。今、父にお願いして無数の天使を配下に置いていただくこともできるが、「マタ 26:54 しかし、それでは、こうならなければならないと書いてある聖書が、どのようにして成就するのでしょうか。」と言われました。これは、イエス様が聖書に証しされているからこそ、ご自身がキリストであることを確かなものにするに分かっておられたからです。主が、復活されてから弟子たちに、聖書全体からキリストについて書かれていることを解き明かされたのも、ご自身がキリストであることを証しするためでした。

3C イエスの証し

このようにして、ご自身が父から遣わされた方であることを証しされたイエス様は、弟子たちにこう言われました。「ヨハ 20:21 父がわたしを遣わされたように、わたしもあなたがたを遣わします。」そして息を吹きかけて、「聖霊を受けなさい。」と言われました。聖霊によって、この方が確かに神の御子キリストであるという確証が、まず弟子たちに与えられました。そして、再び主は、天に昇られる前に、聖霊のバプテスマを受ける約束を弟子たちに与えられ(使徒 1:8)、ご自身の証しを人々に立てることを約束されたのです。

弟子たちは、力強くイエス様を証しました。聖霊による著しい働きをもって証しました。エルサレムのユダヤ人宗教指導者たちに捕らえられますが、大胆に、神はイエスをよみがえらせた。イスラエルを悔い改めさせ、罪の赦しを得るためだ、このイエスを神は導き手、救い主として、ご自分の右の座に上げられたのだ、と言いました。そしてこう言います。「使徒 5:32 私たちはこれらのことの証人です。神がご自分に従う者たちにお与えになった聖霊も証人です。」使徒たちは、復活のイエス様を目撃しましたし、そして、神に従う者たちに聖霊のバプテスマを与えられ、しるしが伴いましたが、それによって聖霊も証ししておられる、ということです。

このようにして私たちにも、イエス様の証言が届いています。つまり、使徒たちが確かに主を目撃していたということ。ただ、それだけでは心に確証は与えられません。聖霊が証ししてくださることによって、確かにこの方は、死者の中からよみがえられた主であると確かめることができます。

2B 救い主

そして、使徒ヨハネは、「**世の救い主として遣わされた**」と言っています。

1C いのちを得させる方

すでにヨハネは、御子が遣わされたのは何のためであるかを語っていました。「4:9a 神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちにいのちを得させてくださいました。それによって 神の愛が私たちに示されたのです。」御子が、世にあって、罪の中に死んでいる私たちを、生かしてくださいました。「エペ 2:5 背きの中に死んでいた私たちを、キリストとともに生かしてくださいました。あなたがたが救われたのは恵みによるのです。」

2C 宥めのささげ物

そして次の節では、罪のための宥めの献げ物になられたことを話します。「4:10 私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、宥めのささげ物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。」私たちの罪のために、現わされる神の御怒りを代わりに受けてくださいました。そして、三日目によみがえられるのですが、そのいのちをもって私たちにいのちをくださいました。このために、御父は御子を遣わされたのです。

3C 世からの救い

そして、「**世の救い主**」という言葉は、罪からの救い、神の御怒りからの救いのみを話しているのではないですね。滅びゆく世そのものからの救い、また世の支配者に対する裁きを表しています。「ガラ 1:4a キリストは、今の悪の時代から私たちを救い出すために、私たちの罪のためにご自身を与えてくださいました。」「Ⅱペテ 1:4 その栄光と栄誉を通して、尊く大いなる約束が私たちに与えられています。それは、その約束によってあなたがたが、欲望がもたらすこの世の腐敗を免れ、神のご性質にあずかる者となるためです。」そして、使徒ヨハネは、「5:19b 世全体は悪い者の支配下にあることを、私たちは知っています。」と言っています。その悪い者、世の支配者を、イエス様は十字架と復活のみわざで裁いてくださいました。「ヨハ 16:11 さばきについては、この世を支配する者がさばかれたからです。」世を自分の支配の中に置き、人々を腐敗の中で滅ぼすサタンの仕業を打ち砕き、裁く方が、「**世の救い主**」です。

それから、ヨハネは、「ユダヤ人だけでなく、異邦人も含めてすべての人」という意味合いも込めて「世」を話しています。「2:2 この方こそ、私たちの罪のための、いや、私たちの罪だけでなく、世全体の罪のための宥めのささげ物です。」そして福音書には、サマリア人たちがイエス様からみことばを聞いて、「**世の救い主**」と呼びました(4:42)。世にいるすべての人です。

2A 応答としての告白 15

「¹⁵ **だれでも、イエスが神の御子であると告白するなら、神はその人のうちにとどまり、その人も神のうちにとどまっています。**」告白であります。これは既に自分のものとなっていることを確認し、それを言い表して決断するという意味合いがあります。ちょうど、結婚式の誓約のようです。もう男女は一生涯、自分たちが結ばれていることを心で思っています。それを神の前で、そして、人々に証人になってもらって、口で告白して誓約を交わすのです。イエス様が、ご自身のことについて、ピラトの前で立派に告白されたパウロは話しています。「Ⅰテモ 6:13 私は、すべてのもの

にいのちを与えてくださる神の御前で、また、ポンティオ・ピラトに対してすばらしい告白をもって証しをされたキリスト・イエスの御前で、あなたに命じます。」ご自身がユダヤ人の王であることを告白してはばかりませんでした。

1B 神の御子としての告白

「イエスが神の御子であると告白」するとありますが、これは単に口でそういうことが告白ではありません。神の御子ということがどういうことかを知って、自分の霊で理解している中で言い表すのです。

1C 父と一つの方

御子というのは、天地を造られた神と同等、神ご自身であることを言っているに他なりません。「箴 30:4 だれが天に上り、また降りて来たのか。だれが風を両手のひらに集めたのか。だれが水を衣のうちに包んだのか。だれが地のすべての限界を堅く定めたのか。その名は何か、その子の名は何か。あなたは確かに知っている。」天地を造られた方に子がおられ、その子も創造者であることを明言している箇所です。イエスは、「ヨハ 10:30 わたしと父とは一つです。」と言われました。

2C 人以上の方

ユダヤ人の宗教指導者を怒らせたのは、イエス様をご自身を人以上の方としたからに他なりません。イエス様が、初めに宮清めを行われた時に、「わたしの父の家を商売の家にしてはならない。」と言われました(ヨハ 2:16)。畏れ多き神の住まわれる家を、自分のお父さんの家としたのです。また、安息日において父が働いているから、わたしも働いていると言われました。安息日は神の聖なる日です。その神を父と言っているのです。「ヨハ 5:18 そのためユダヤ人たちは、ますますイエスを殺そうとするようになった。イエスが安息日を破っていただけでなく、神をご自分の父と呼び、ご自分を神と等しくされたからである。」

そして興味深いのは、生まれつきの盲人がイエス様によって癒された後で、彼がイエス様をどのように言っているか、徐々に変化していることです。人々が尋ねるので、「イエスという方が泥を作って」と答えています(9:11)。イエスという人、イエスという男ということです。そして、パリサイ人の宗教指導者に問い詰められたら、「あの方は預言者です。」と答えました(9:17)。目が見えなかったのに、見えるようにしてくださったのですから。そして、盲目で生まれた者の目を開けることなど、昔から聞いたことがない。だから、「あの方が神から出ておられるのでなかったら、何もできなかったはずです。」と大胆に告白しています(9:33)。そして、ユダヤ人共同体から追放されます。そこにイエス様がやってきました。そして、「あなたは神の子を信じますか。」と尋ねられました。彼は、「主よ、信じます。」といて、神の御子としてイエス様を礼拝したのです(9:38)。

弟子たちも、この方が偉大な預言者であるということまでは信じて、受け入れることができていました。キリストであるとも思っていました。けれども、水の上を歩かれるのを見たりして、人ではなく、神からの方、神の御子ご自身だという確信を完全に持つのは、よみがえってからでしょう。ペテロが、「あなたは生ける神の御子キリストです」とは言いましたが、その直後に、イエス様を脇に引き寄せて、いさめるようなことを言っていますから、ペテロは自分の告白したことを本当に分かっている

ません。復活によって、公にこの方が御子であるとはっきりと明らかにされ、そして聖霊が注がれて揺らくことのない確信となったのです。ですから、告白というのは、過去に一回限り行うことなく、この方を知って、言い続けることなのです。

2B 告白による救い

1C そばにある神のことば

ローマ 10 章で、パウロは、イエスを主であることを口で告白することによって救われることを話しました。その前にモーセの申命記にある言葉を引用しています。天に上ることも必要なく、地に下ることも必要なく、ただ、自分の口のそばに主のことばがあると云ったのです。すでに、力はすぐそばに用意されているのです。「ロマ 10:8 では、何と云っていますか。「みことばは、あなたの近くにあり、あなたの口にあり、あなたの心にある。」これは、私たちが宣べ伝えている信仰のことばのことです。」教会に不満を持っているある人が、相談しました。この教会には癒しが無い、と。そこで友人の牧師さんが言いました、「ここにイエス様がおられると期待すればいいんじゃない？癒しがある教会におられるイエス様と、この教会のイエス様と同じだよ。」同じように、みことばも自分のそばにあり、口にあり、心にあるのです。

2C 言い表すことばの力

ですから、告白することによって打ち勝つ力が与えられます。「黙 12:11 兄弟たちは、子羊の血と、自分たちの証しのことばのゆえに竜に打ち勝った。彼らは死に至るまでも自分のいのちを惜しまなかった。」悪魔に打ち勝ったということです。この証しのゆえに、死に至ることになりますが、それでも御名を否みませんでした。そこで世に打ち勝つとあります。イエス様がペテロに、彼の告白の上に教会を建て、「マタ 16:18 よみの門もそれに打ち勝つことはできません。」と言われました。